

従業員向け	放課後等デイサービス評価表（UプロフェSSIONAL）
-------	-----------------------------

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業員の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業員の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		瀬戸スタジオでの活動時は、内容やその人数などにより部屋を分けるなどの工夫をし、のびのびと活動ができるよう、また密になりすぎないようにしている
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		子どもの状態により人数を増やすなど、対応ができるよう、また子どもたちみんなが楽しめるよう配置している。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		瀬戸スタジオは4つの部屋に分かれており、活動内容により空間を分けている。置くにある部屋への動線はカラーテープを使い張り紙をするなど工夫をしている。 階段を登って2階にあるため配慮が必要な子どもにはマンパワーで対応している。 子どもによって分かりやすいよう視覚支援やタイマーなども用いて声をかけている
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		日々活動前には清掃を行う。また、工作や調理などで汚れた際には適宜清掃をする。 アルコール消毒用のスプレーなども完備し外活動の際にも携帯するようになっている
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		クールダウンができるスペースを確保している 音が気になる時や気持ちがざわざわするときには集団と離れることができる。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		送迎時含め活動の振り返りを行い、次への改善を行っている。シフト制であり毎日全員がそろわない場合もあり、情報を共有できるよう意識と工夫をしている。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		アンケート実施中や回答終了後に結果を見て分析、至らない部分をどう改善するかミーティングの場を設けている。イベントなどのご意見もいただいたため、来年度の企画に意向を反映させていく
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		デイの打ち合わせ・振り返りともに意見を出し合い、より良いデイになるよう話し合っている。 デイ終了後にだけでなく、デイ中でも随時子どもたちの気になったことや保護者の方からの情報などを共有している。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	第三者委員は設けていないが、保護者からのご意見も含め事業所外からのお声をより良い活動のために大切にしている。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	4		受講したい研修があればシフトを調整し出席できる体制をとっている。また出席したスタッフが他のスタッフに情報共有をしている。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		皆さまがみて分かりやすいものになるよう練り作成している。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		子どもの変化に合わせてアセスメントと分析をし、活動内容や対応に反映させている
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		全員が関わり作成をしている。 作成後も日々変化する子どもの状態に合わせて必要な時には変更を検討している。

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		共有をしている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		アセスメントにも力を入れているが、アンケート結果から、潜在的なニーズへの気づきや対応が不十分なのではないかと考えている。今後改善にむけ力を入れていく	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		この方針が周知されてから、スタッフ間でも確認を重ねている。言語化することの難しさを感じているが日々の支援では網羅できていると感じている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		子どもたちの「やりたい」気持ちを尊重し、聞き取りができた際にはデイに盛り込めるように工夫している 様々な子どものニーズへ対応できるよう意見交換を日々重ねている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		固定化しないように、同じ題材でも変化をもたせるなど飽きない工夫をしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		個別が必要な場合にはプログラムを工夫しスタッフを配置して適切な環境や支援内容となるよう対応している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		事前の打ち合わせは綿密に行っている。役割を決め当日起こるイレギュラーもコミュニケーションをスタッフ間で取り合い臨機応変に対応できるようにしている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		子ども達だけでなく保護者の方にも最近のハマリ事などを教えてもらいデイの内容に活かしている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		記録を必ずとるよう徹底している。一方で、効率よくできるよう記録シートを工夫し、子どもの活動の工夫や準備、打ち合わせの方に時間をとれるよう意識している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		モニタリングとして行う話し合いだけでなく、日々の振り返りや打ち合わせの場でも細かな変化を共有しついでに見直しができるようにしている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4		活動の中で網羅できている。スタッフ間で言語化することで、日々の活動が基本活動とつながっていることを意識している	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		その日の活動のリーダーを選び、チーム構成や時間配分などを決めてもらうようにしている。 「やる、やらない」「こちらをやる」など、発達に合わせた選択や表現ができるよう支援をしている。	
	関係機関	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		学校のスケジュールに合わせた時間設定になっているため、すべての会において調整をすることは困難だが、適切なスタッフが参加できるよう調整をしている
		27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		高知市南部に送迎エリアを限定していることで、特に学校とは顔がつながり気軽に情報交換をしあえる関係になってきていると感じている。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		個別の下校時間表を頂戴し、イレギュラーで変更になる場合は電話をもらっている。また、子どもの変化についても対面や電話連絡などで情報共有をしている	
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		利用前に幼稚園や保育園へ出向いて状況を確認したり、必要時は追加で問い合わせをさせていただき、デイの活動がより深まるよう確認を重ねている	

関 や 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		担当者などで顔をあわせて経過や状況、子ども本人が感じている不安などを共有している。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4		研修などで支援の質をあげるよう調整をしている
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4		誰でもが参加できるイベントを設けてたり、地域のお祭りへ参加したりするなど、一緒に活動する機会がある
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		4	現段階では参加していないが、ホームページ上でどのような話し合いがなされているかを見ている。今後はイレギュラーなケースの相談などをしていくよう準備している
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		送り迎え時や、モニタリング、デイのご連絡の機械などさまざまなタイミングで情報共有をし、共通理解を持てるよう心がけている
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		研修をUプロフェッショナルで行ってはいないが、ペアトレ養成講座で得た情報や手法を用いて対応をしている
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時、また変化があった時などでお伝えをしている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		折々にお話をする機会をもち、ご家族や本人の意向を大切に、子どもを真ん中にした支援ができるよう心がけている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		事業所の支援をお伝えできるよう説明に工夫をしている。子どもの変化に合わせて支援も変化してくるため、折々にお話をしている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		子どもの変化にあわせて出てくる悩みなどに対応できるよう、スタッフ間で情報を共有している。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		保護者が主役のイベント『パパプロ、ママプロ』を開催し交流の場としている。また保護者やきょうだい児が参加できるイベントを設け、ご家族まるごとで参加し参加者同士での交流もできる場を設けている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情受付の体制を作っている。法人内で苦情を共有し自分事としてとらえ質の向上を図っている。また「気になること」の段階で気軽に教えていただけるよう働きかけしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		広報誌「なないろ」に加えインスタグラムにより活動の様子や事業所・法人を知っていただけるよう発信をしている。 公式LINEをスタートしデイ卒業しに向けても同窓会などのイベントを発信している。 日々の連絡は主にLINE、またメールを活用し分かりやすくタイムリーに発信ができるよう整備している
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		徹底をしている。 実習生にも個人情報保護の徹底は時間をさいて徹底ができるよう説明している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		子どもたちや保護者の皆さまの状況にあわせてのお伝えや情報共有ができるよう努めている
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		瀬戸スタジオはデイ以外の時間に卓球教室や書道教室を開いたり地域のスポーツ少年団も使用するなど、交流の場がある。
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		さまざまな場面を想定した訓練を行っている。土地勘がない子たちもいるため、デイの活動を通して地域のことを知りいざというときの避難につながるよう図っている。	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		策定している。新しいスタッフにも共有をしている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		てんかん発作の既往がある子どもさんは、利用前にご家族と情報共有を行い、必要であれば学校などへ問い合わせをし対応の確認をしている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		おやつの時、調理をする時にはアレルギーの子に配慮するとともに新たな食材を使うときには再度確認を行っている
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		運動など体を動かすことを中心とした活動をしているため、法人内でヒヤリハットを共有しリスク管理ができる体制をとっている
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		活動時の安全を守ることができるよう準備をしている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		活動時、送迎中含め法人内でヒヤリハットを共有しリスク管理ができる体制をとっている
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止委員会を設けている お互いに意見がしやすい風通しの良い職場であるよう努めている
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		身体拘束を行っていないが、やむをえず必要になればご家族との話し合いとともに計画への記載を行う。